

2023年度以前入学生対象
カリキュラム・ポリシー
(教育課程編成・実施の方針)

1. 編成の方針

建学の精神「報恩感謝」ならびに教育理念「自立・創造・共生」に基づき、日本語日本文学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げる「報恩感謝の心と幅広い教養」「専門的な知識・技能」「問題解決能力」「自律的・主体的・共感的態度」「実践力」を修得させることを目的としてカリキュラムを編成している。

2. カリキュラムの構成

1)豊かな人間性と幅広い教養を備えることをめざし、共通教育科目として、建学の精神と教育理念に則った人格形成を行う「必修科目」、外国語コミュニケーション能力を育成する「外国語科目」、多様な教養を身につけさせる「選択科目」を配置している。また社会人に必要な知識やスキルを身につけて、自身にあった職業選択につなげていく「キャリア教育科目」も配置している。

2)上記の編成方針に基づき、共通教育科目・専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講する。そして、カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の系統性や段階性を表現するナンバリングを行ない、また、学生の履修方針の明確化のために、「日本語日本文学」コースの中で、「日本語教育」・「国語教育」・「書道教育」・「企画・編集」・「図書館情報」の各コースを設定している。

3. 教育内容・方法

1)報恩感謝の心と幅広い教養

I. 互いの「いのち」を尊び、その恩をたずね、すべてのものに感謝する心を持つ学生を育てるために、「宗教学」を開講し、「建学の精神」の意識化を促す。ひいては、社会の発展と知見の創造、そして文化の向上に資する学生の人格形成を支援する。

II. 幅広い教養を身につけ、多面的・多角的に思考する能力を養成するために、外国語科目を必修として設定するとともに、人文科学・社会科学・自然科学・総合の4領域から選択して履修することを義務づけている。

2)専門的な知識・技能

I. 日本語学、日本文学および関連領域（日本語教育・国語教育・漢文学・書道教育・図書館情報学）に関する基礎から専門にわたる知識を修得し、日本文化を担う幅広い文学的素養を身につけることができるように、日本語学・日本文学に関する各時代・各分野を網羅して教員を配置し、それらの教員から専門的な講義・演習・実習等を履修できるようにしている。

II. 日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くとともに、自らの見解を分かり易く伝えることができるように、初年次の「研究基礎」（入門）・2年次の「基礎ゼミナール」

（実践）・3年次の「ゼミナールⅠ」・4年次の「ゼミナールⅡ」（応用）という、段階的、かつ、実践的なカリキュラムを設定し、合わせて、プレゼンテーション能力の向上のための科目も設置することで、これらの能力の育成を行なっている。

III. 「フィールドワーク」等の体験型の科目では、事前に十分に調査を行い、当日は現地に行って実際に接することで、専門的知識を体系的に身につけ、また学科が行う講演会や芸能鑑賞会等で本物に触れる場を設け、より効果的に学びを深めている。

3) 問題解決能力

正確な情報分析に基づいて考察し、判断する能力を身につけること、課題の探求、発見、追求、解決という一連のプロセスを達成する能力を身につけること、幅広い知識・理解をもとに、新しい知見を創造することができることの三つを目的として、科目を設定している。上記1)・2)の知識・技能に基づき、2年次の「基礎ゼミナール」・3年次の「ゼミナールⅠ」・4年次の「ゼミナールⅡ」を中心に、演習形式を用いて、問題解決能力の育成を行なっている。また、各科目におけるレポート作成や課題提出等によっても、同様の配慮が為されている。

4) 自律的・主体的・共感的態度

社会の諸問題に対して、人文学の知に基づいて積極的に解決しようとする姿勢を身につけること、多様な価値観を認めつつ、学びを通して自己の認識を広げ、感性を磨くことの二つができるように、科目を設定している。特に2年次の「基礎ゼミナール」・3年次の「ゼミナールⅠ」・4年次の「ゼミナールⅡ」を中心に、演習形式の中で、自ら課題を設定し、その解決に向けて、自ら調査・研究を行なうことを課している。また、演習形式以外の講義科目においても、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を取り入れることで、より効果的に、上記の能力の育成を行なっている。

5) 実践力

他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけること、大学での学びをもとに、社会や他者のために主体的・積極的に行動し、貢献することを目的として、科目を設定している。基礎的な情報通信技能・文章作成能力・プレゼンテーション能力・企画立案能力等を各年次で高める科目を設置すると共に、本学科独自にキャリア科目を設定し、また、専門科目全体を通じて、多様な価値観や多角的な視点から社会や職業を捉えるための「物の見方」・「考え方」の育成を行なっている。

4. 評価の方法

授業の参加の様子、発表、レポートなどで各授業での学習の到達を評価・確認するとともに、学期末の試験等によって学習の到達を評価・確認している。最終的に、卒業研究において、知識や技能を活用する能力を総合的に評価する。